

国立大学法人の各年度終了時の評価における附属学校の評価について (案)

1. 附属学校に関する年度計画に係る事業の外形的・客観的な進捗状況を確認し、注目すべき点を示す。
 2. 注目すべき事項の選定においては、附属学校としての使命・役割を十分に果たしているかについて、以下の事項例において進捗状況が著しい取組を取り上げることが考えられる。
- ※ ただし、これらの事項例は、附属学校としての目的を十分に果たしているかどうかを評価する場合に、一般的に考えられる取組を示したものであり、附属学校における全ての取組を列挙したものではなく、これらの事項例に基づいて一律に注目すべき事項を選定するものではない。

(1) 学校教育について

- 実験的、先導的な教育課題への取組状況。
- 地域における指導的あるいはモデル的学校となるような、教育課題の研究開発の成果公表等への取組状況。

(2) 大学・学部との連携

- 大学・学部の間における附属学校の運営等に関する協議機関等の設置状況。
 - 大学・学部の教員が一定期間附属学校で授業を担当したり、行事に参加したりするようなシステムの構築状況。
 - 附属学校の大学・学部のFDの場としての活用状況。
- ①大学・学部における研究への協力について
- 大学・学部の教育に関する研究に組織的に協力する体制の確立及び協力の実践状況。
 - 大学・学部と附属学校が連携して、附属学校を活用する具体的な研究計画の立案・実践状況。
- ②教育実習について
- 大学・学部の教育実習計画における、附属学校の活用状況。
 - 大学・学部の教育実習の実施協力を行うための適切な組織体制の整備状況。
 - 大学・学部と遠隔地にある附属学校においても支障が生じない教育実習の実施状況。